

1. 略歴

| | |
|----------|--|
| 1986年3月 | 東京大学文学部宗教学宗教史学専門課程 卒業 |
| 1986年4月 | 東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻修士課程 入学 |
| 1988年3月 | 東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻修士課程 修了 |
| 1988年4月 | 東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻博士課程 進学 |
| 1991年9月 | シカゴ大学大学院ディヴィニティ・スクール宗教史専攻留学 (至1994年6月) |
| 1995年12月 | 東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専攻博士課程単位取得退学 |
| 1996年1月 | 日本学術振興会特別研究員 (至1998年12月) |
| 2001年4月 | 大正大学文学部国際文化学科助教授 |
| 2006年4月 | 大正大学文学部表現文化学科教授 |
| 2010年4月 | 大正大学文学部人文学科教授 |
| 2011年4月 | 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野准教授 |
| 2017年4月 | 同教授 |

2. 主な研究活動

a 専門分野

宗教学 (理論研究・比較研究)、宗教と教育の関係、北米の宗教

宗教学の基礎でありながら、20世紀後半以降、方法として成立し難くなった「比較」に注目し、その観点から理論研究を行うとともに、ケーススタディでは宗教と教育の関係、世界宗教史記述を対象としている。さらに、宗教学史についても国際宗教学宗教史学会 (IAHR) と宗教現象学の関係史について議論を活性化させ、国際学会のあり方・日本のアカデミアの関わり方についての問題提起を試みている。

b 研究課題

宗教比較の方法、宗教史の記述について、学界ならびに一般社会に見られる問題とその背景・原因を洗い出し、具体的対案を提示することを課題とする。個々の課題設定は以下の通りである。

- (1) 比較理論の検討として、①欧米宗教学の変遷、②宗教分類概念の問題、③宗教に対する代替概念の問題をとりあげる。
 - ①「比較宗教学 comparative religion」から出発した欧米の宗教学とその基礎前提が、その後通時的・実証的研究を重視することによってどのように変化したかを調べる。人文的宗教学と社会科学的宗教学の制度的位置関係についても、その歴史の変遷過程を明らかにする。特に20世紀の比較宗教研究の代名詞であった、宗教現象学の受容と変容について共同研究を行い、その成果をIAHRをめぐる現在の論争に反映させる。
 - ②「世界宗教」「民族宗教」の対概念をはじめ、宗教学で伝統的に用いられてきた宗教分類概念の妥当性を、昨今の批判理論に照らして検討する。
 - ③2000年代以降の宗教現象を分析するために、ポスト・セキュラー論・概念がしばしば用いられるようになったが、それは日本の現状をとらえるのにどこまで有効かを検討する。
- (2) (1)の発展形として、マクロ理論や体系的研究が国内外の宗教研究分野においてどのように新たに試みられているかを調査し、その特徴を20世紀の宗教研究の諸理論に照らして明らかにし、可能性や問題点を吟味する。また、翻って今日的観点から従来の理論・理論史の理解・評価を再検討する。
- (3) 近現代社会の公教育において宗教がどう扱われてきたかに関する歴史的研究を行う。

ある国の公教育では宗教が排除される、他の国では宗教が取り込まれるという現象を、単に「宗教教育の有無」や「政教分離の有無」として見るのではなく、排除・吸収どちらの場合でもその前提として公権力により「宗教」が定義されていることに注目し、各国の教育制度と法令・教科書の中にその表れを探る。一般概念としての「宗教」のみならず、キリスト教、仏教といった各宗教に関する記述と、教育方法・思想や当該国の宗教・社会情勢の関係を調べる。
- (4) (3)の研究成果を踏まえ、国内の公教育における宗教の描き方・教え方に関する問題点を指摘し、改善のための具体的方策を示す。対象は中等教育から高等教育、社会人教育を含む。

c 概要と自己評価

上記の(1)については編著1冊を刊行、論文を1点発表した他、国際学会で基調講演、招待講演、国内学会でパネルを2回オーガナイズし発表を行った。さらに、2023年12月に国際宗教学宗教史学会の理事会 (International Committee

Meeting)・特別会議を東京に招致・オーガナイズし、プロシーディングスを作成し、それに基づく論文集(国際共編著)の制作にとりかかった。2022~23年度はロシアによるウクライナ侵攻、安倍元首相銃撃事件が起これ、これらは宗教学者や宗教学会に少なからぬ影響を与えた。そのアクチュアルで複雑な状況に回答することが(1)の取り組みに加わり、発表と学会の運営を並行して行った。(2)については論文を寄稿した他、国内外の学会で4回発表した。(3)(4)については、インタビューを行った他、国際共著用に論文を2点、提出済みだが全体の刊行が遅れている。

d 研究業績

(1) 書籍出版物

[編者]『日本人無宗教説—その歴史から見えるもの』、筑摩書房、単行本(学術書)、2023.5.18、272p

(2) 論文

[大学,研究機関紀要]「宗教「学」をめぐる論争の変遷と現在—国際学会のアイデンティティ・ポリティックス」、『東京大学宗教学年報』40巻、pp.1-22、2023.4.5

[学術雑誌]「国際宗教学宗教学会 (IAHR) 報告—二〇二三年国際委員会東京開催に向けて」、『宗教研究』97巻1号、pp.174-181、2023.6.30

(3) その他各種論著

[総説・解説(学術雑誌)]「宗教学に基づく宗教教育の必要性」、ティム・イェンセン(インタビュー)、藤原聖子(解題・聞き手・翻訳)、『現代宗教2024』、pp.295-313、2024.1.31

[総説・解説(学術雑誌)]「宗教心理学と宗教学の連携のために」、『宗教/スピリチュアリティ心理学研究』2巻、pp.1-6、2024.3.31

(4) 講演・口頭発表等

[口頭発表(招待・特別)]「日本では「過激主義」はどこにあるのか?そして「危険」は?」、日仏におけるイスラームと政治的・社会的価値観、オンライン、2022.7.9

[シンポジウム・ワークショップ パネル(オーガナイザー・チェアー)]「宗教史の中のIAHRと宗教現象学」、日本宗教学会第81回学術大会、オンライン(愛知学院大学)、2022.9.10

[口頭発表(招待・特別)]“Getting out of a proxy war: History and locality of the Japanese religious studies academy and Buddhist studies,” Interpreting Japan Interpreting Buddhism, University of Chicago, Chicago, 2022.10.17

[口頭発表(レスポンス)]「アニミズムは地球を救うか?」、ハルオ・シラネ氏講演会 人間と非一人間の取引関係から考える人文環境学、東京大学文学部、2022.11.26

[口頭発表(基調)]“Practicing Belonging, Vicarious Spirituality and Gendered Fetishism: The Transformation of the Non-religious/Religious in Contemporary Japanese Youth Culture,” International Society for the Sociology of Religion (ISSR), Taipei, 2023.7.5

[シンポジウム・ワークショップ パネル(チェアー)]“Global/World Humanities,” CIPSH International Conference, “Humanities in the Global and Digital Age: The role of Humanities research traditions and interactions in contemporary society,” University of Tokyo, 2023.8.23

[口頭発表(一般)]“Lessons learned or not learned: How scholars have reacted to recent anti-cultism in Japan,” 20th Conference of the European Association for the Study of Religions, Vilnius, 2023.9.5

[口頭発表(一般)]「還元主義 VS 反還元主義論争からこぼれ落ちていたもの」、日本宗教学会第82回学術大会、東京外国語大学、2023.9.10

[シンポジウム・ワークショップ パネル(オーガナイザー・チェアー)]「宗教現象学と認知進化科学の対話—理解の学と説明の学の架橋」、日本宗教学会第82回学術大会、東京外国語大学、2023.9.10

[口頭発表(招待・特別)]「宗教学者は宗教と政治の問題をどう論じてきたか」、日本政治学会研究大会、明治大学、2023.9.16

[シンポジウム・ワークショップ パネル(指名)]「海外における人文社会系基礎データの収集・公開状況」、総合知における人文・社会科学の役割と評価、オンライン、日本学術会議第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会 第一部人文・社会科学基礎データ分科会、2023.9.23

[シンポジウム・ワークショップ パネル(指名)]「AI時代の宗教と宗教学」、AI時代における哲学・美学・倫理学・宗教学、オンライン、日本学術会議哲学委員会、2023.11.25

(5) 共同研究・競争的資金等の研究課題

「宗教現象学の形成と論争に関するトランスナショナル・ヒストリー」、藤原聖子、基盤研究(B):20H01188、東京大学、2020.4.1~2024.3.1

e 社会活動

(1) 学術貢献活動

[その他] Bloomsbury Series Advances in Religious Studies, International Editorial Board, 2023.5.1～

[企画立案・運営等、パネル司会・セッションチェア等] 大会・シンポジウム等「IAHR Special Conference “Can the IAHR be engaged and relevant without being political or confessional?: The position of ‘science (*Wissenschaft*)’ in 2023”」、日本宗教学会、東京大学、2023.12.16～17

[その他] *Religion*, Editorial Board Member, 2024.2.1～

f その他

(1) 非常勤講師

東北大学文学研究科、集中、2022.9

(2) 学会・委員活動

[委員歴] International Association for the History of Religions, Executive Committee, 2010.8～、Secretary General, 2020.8～、*Numen*, Editorial Board Member, 2010.8～

[委員歴] 日本宗教学会、理事、2011.4～、常務理事、2019.9～、会長、2023.9～

[委員歴] 日本学術会議、連携会員、2019.10～

[委員歴] 日本宗教学研究諸学会連合、幹事、2014.12～

[委員歴] 一般財団法人公正研究推進協会、教材査読委員、2019.3～

[委員歴] International Council for Philosophy and Humanistic Studies (CIPSH)、Executive Committee、2020.12～、Global History of the Humankind プロジェクト委員、2020.12～

[委員歴] 文化庁宗務課、宗教法人審議会委員、2022.4～